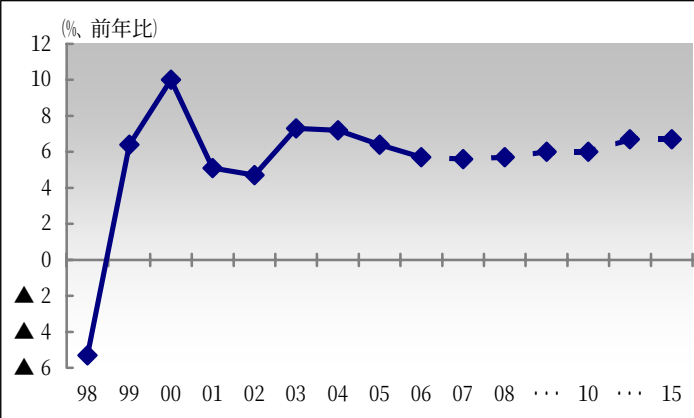


ロシア

1 経済概況

(図表1) 実質GDP成長率 (出所:ロシア経済発展貿易省)



- 98年の通貨切り下げ以降、毎年高水準の経済成長を続けており、05年もエネルギー価格の高騰を背景とした輸出の拡大により実質GDP成長率は6.4%を記録。
- 06年以降もエネルギー価格の動向に左右される部分はあるが、輸出と国内投資主導で6%前後の堅実な経済成長が見込まれる。

2 鋼材需要産業動向

○建築

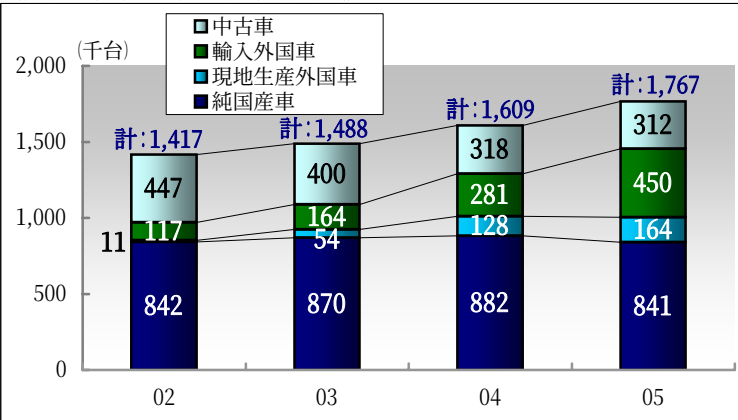
(図表3) 建築床面積 (単位:百万㎡) (出所:ロシア統計サービス)

	2003	2004	2005	前年比
住宅建設	43.4	49.3	54.8	11.2%
非住宅建設	10.3	10.7	11.5	7.5%
産業	2.6	2.5	2.5	0.0%
農業	0.8	0.8	0.8	0.0%
商業	2.3	2.9	3.5	20.7%
教育	1.4	1.3	1.3	0.0%
ヘルスケア	1.0	1.1	1.0	▲9.1%
その他	2.2	2.1	2.4	14.3%
合計	53.7	60.0	66.3	10.5%

- モスクワ等の大都市を中心に新築マンションの建設ラッシュが続いており、「不動産バブル」の状況を呈している。

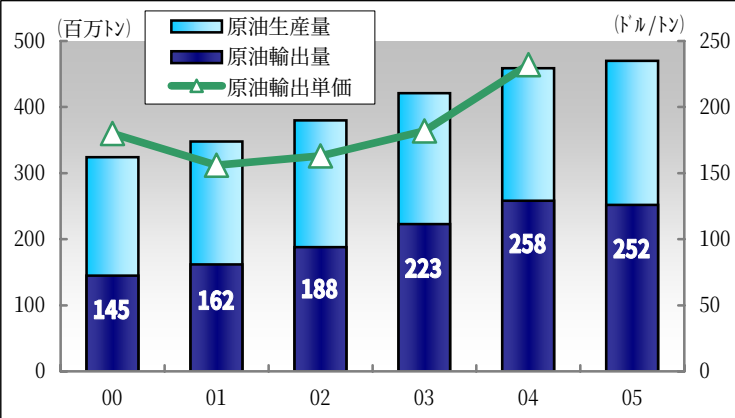
○自動車

(図表5) 乗用車販売台数推移 (出所:各種資料)



- 外国車売が拡大の中心を占め、外国車販売台数トップの現代を筆頭にトヨタ、Ford等各社とも好調に推移。

(図表2) 原油生産量、原油輸出高 (出所:ロシア連邦統計局他)



○エネルギー

(図表4) 主なパイプライン (PL) プロジェクト

プロジェクト名	可採埋蔵量	PL網
サハリン1	石油:3.25億トン 天然ガス:4,850億m ³	石油:370km 天然ガス:2千km以上
サハリン2	石油:1.5億トン 天然ガス:6,420億m ³	合計:1,570km
東シベリア・太平洋原油PL	石油:15億トン	4,130km
コビクタ・ガス田開発プロジェクト	天然ガス:2.5兆m ³	4,887km
ロシア・中国ガスPL	—	2,800km
北欧ガスPL	天然ガス:7,000億m ³	2,106km
ヤマル・欧州ガスPL	天然ガス:5.8兆m ³	2,500km
Shtokmanプロジェクト	天然ガス:3.7兆m ³	8,600km

- ロシア北部、東シベリア、極東地域で複数の大規模なプロジェクトが進行中であり、鋼管需要は拡大の見込み。
- 一方で、ロシアミルの設備増強により輸入の代替も進行。

(図表6) 外資系自動車メーカーの進出状況 (出所:各種資料)

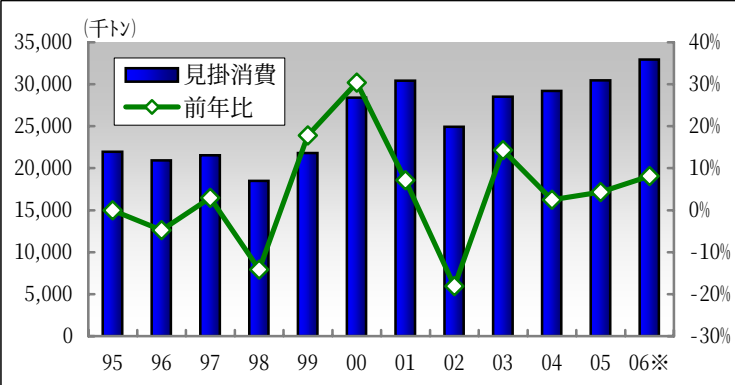
生産開始	外資系メーカー	生産地	生産台数
1997年5月	起亜 (韓)	カニングラード州	1.2万台
1999年7月	BMW (独)	カニングラード州	0.2万台
2001年6月	現代 (韓)	ロスト州タカソログ	4.3万台
2002年7月	Ford (米)	レーニングラード州	3.3万台
2002年9月	GM (米)	サマラ州	5.2万台
2002年11月	Renault (仏)	モスクワ市	1万台
2004年3月	起亜 (韓)	ウドムルト共和国	0.3万台
2007年12月	トヨタ (日)	サンクトペテルブルク	2万台
2007年後半	VW (独)	カルーガ	2万台
2008年9月	GM (米)	サンクトペテルブルク	2.5万台
2009年初め	日産 (日)	サンクトペテルブルク	2.5万台

- 自動車部品の大多数は依然輸入に依存。

ロシア・ウクライナの鉄鋼需給の現状と今後の展望

3 鉄鋼需要

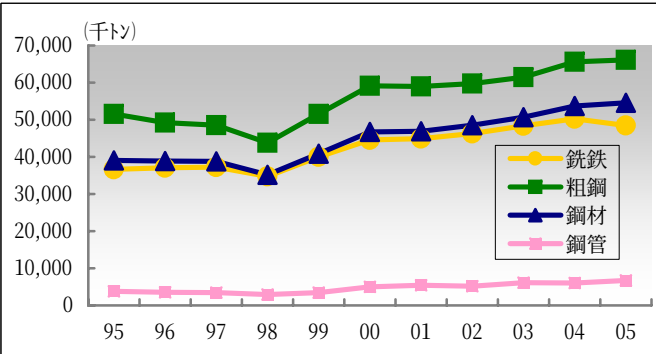
(図表7) 見掛消費量推移 (※) 06年数値は通年見通し (出所:IISI)



- 05年の見掛消費の伸びは前年比4.3%増と緩やかな増加に止まったが、06年は通年で8%程度の増加が見込まれ、今後も8%以上の堅調な拡大が予想されている。

4 鉄鋼生産、輸出入

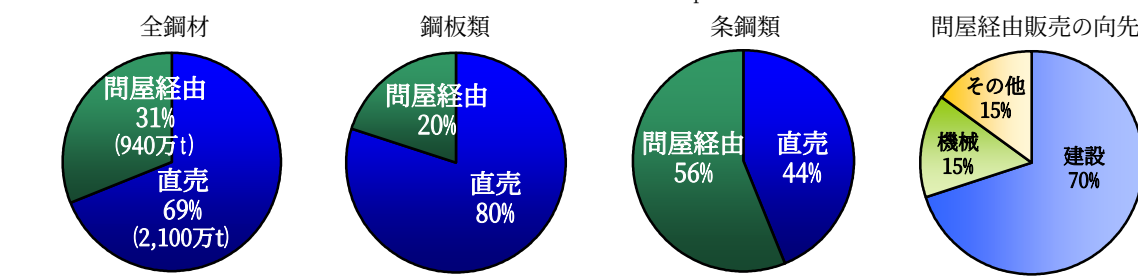
(図表9) 鉄鋼生産 (出所:ロシア連邦統計局)



- 05年の粗鋼生産は前年比0.9%の微増に止まるも、各国内ミルは上工程から下工程までの合理化、高級化を実施。今後も着実な拡大が続く見込み。

5 国内流通の現状

(図表11) メーカー直売、問屋経由販売比率 (出所:Novolipetsk社、Severstal Invest、(数量は試算))

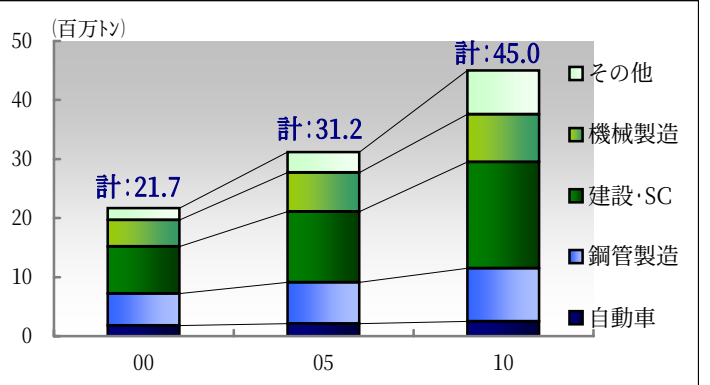


(図表12) 主要問屋と取扱数量 (単位:千トン/年)

企業名	取扱数量	備考
Severstal-Invest	1,000	Severstal販売子会社
Magma-Trade	1,000	Magnitogorsk販売子会社
EvrázMetal	850	Evráz販売子会社
Komtech	850	-
Stalepromyshlennaya	800	-
Dipos	600	-
Metallservice	500	-
Inprom	450	-

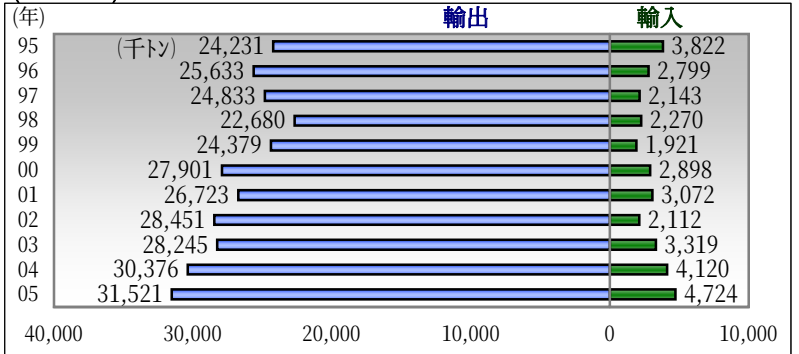
- 上位3社はメーカー系列の問屋。

(図表8) 需要産業別鋼材消費動向 (出所:Severstal)



- 建設、エネルギー、自動車、その他全般に渡って需要が伸びる見込み。特に潜在需要が大きい建設と大型プロジェクトが進展する鋼管関連の需要が中心となる。

(図表10) 鋼材輸出入 (出所:ロシア通関統計)

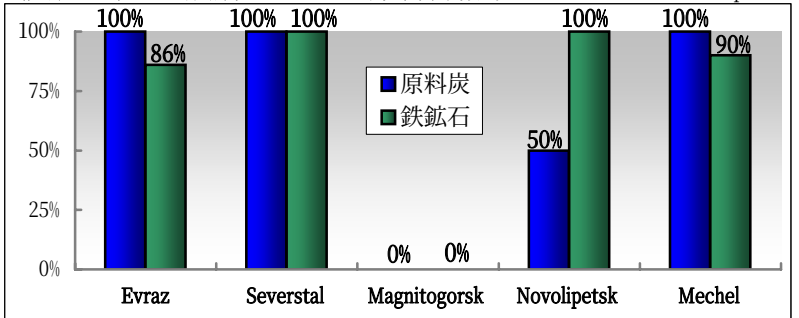


- 鋼材輸入は高付加価値鋼板、鋼管類が中心。尚、鋼管に関しては輸入代替も進行している。
- 輸出比率は依然50%超。その内、鋼塊・半製品が半分を占め、35%程度が鋼板類 (主に熱延鋼板)。

- 自動車等のユーザーは要求品質レベルが高い為、鋼板類のメーカー直売が80%を占める。

6 原料自給率

(図表13) ロシア鉄鋼メーカーの原料自給率 (出所:ATON Capital)



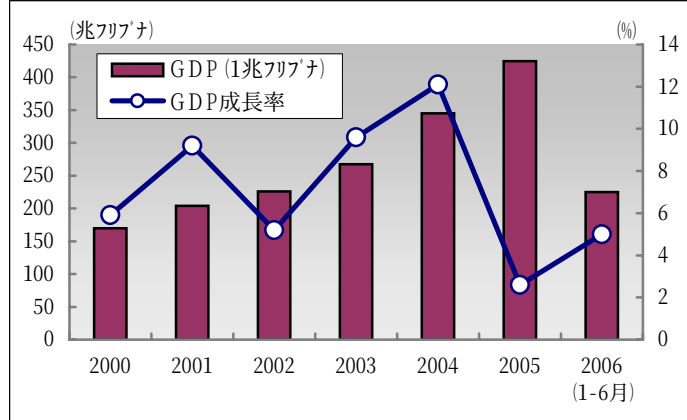
- Magnitogorskを除き、各主要ミルは自前の鉄鉱山・炭坑を保有。今後も完全自給に向けて積極投資を行う。

ウクライナ

1 経済概況

(図表1) GDP成長率

(出所: 国家統計委員会)



- 主力の金属分野を中心に輸出が減少し、輸入依存度の高いエネルギー価格の上昇と政治的な混乱もあり、実質GDP成長率は2004年の12.1%から2005年は2.6%に急落
- 小売販売高等の個人消費は堅調を保ち、2006年に入り経済指標には持ち直しの徴候もみられることから、景気は緩やかながら回復に向かっている

2 鉄鋼需給の動向

(図表3) ウクライナの鋼材需給推移

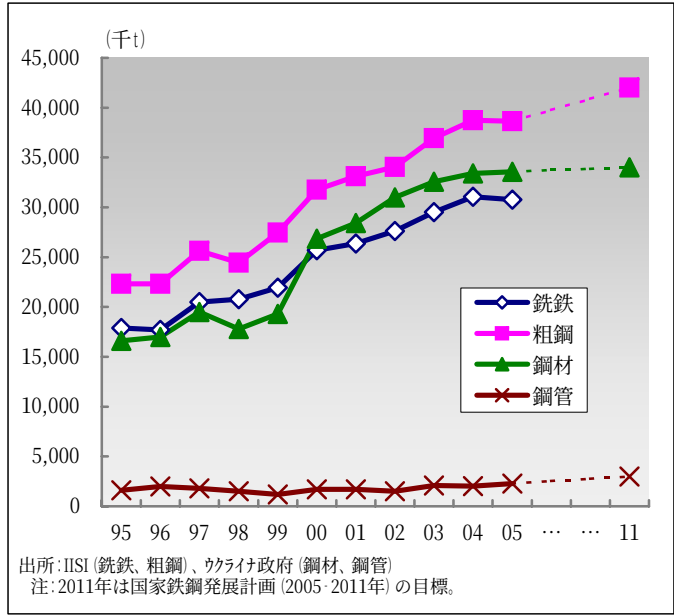
(単位: 千トン, %)

	鋼材消費 (前年比)	鋼材生産 (前年比)	輸入 (前年比)	輸出 (前年比)	輸出比率
2000	3,430	26,850	450	22,283	77.9
2001	4,170	28,430	550	24,380	81.2
2002	4,910	30,980	674	25,858	80.4
2003	6,810	32,560	827	26,575	77.9
2004	7,540	33,400	822	28,182	80.6
2005	8,200	33,466	1,020	27,418	78.0
2006*	8,800	36,820	712	15,154	82.8

出所: ウクライナ産業政策省
ウクライナ通関統計
注: 06年の鋼材消費は
通年の見通し。生産、
輸出、輸入は1-6月実績

- 国内の鋼材消費は生産に対比すると依然規模が小さく、2005年の輸出比率も依然78%の高率を持続。07年上期は輸出が持ち直し、生産も回復するも、外需への依存度は依然高い水準。国内需要の充実のため機械や建設などの需要産業の育成が課題。

(図表4) ウクライナの鉄鋼生産



- 2005年の粗鋼生産は輸出市況の低迷や原料調達難などから減産し、前年比0.3%の減少。2006年に入ってから輸出の好転もあって1-9月で前年比7.9%増へ回復。

(図表5) ミルの設備投資

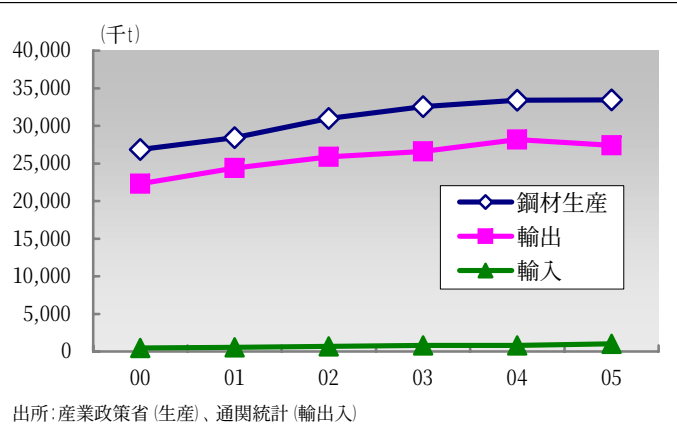
(出所: 各種資料)

メーカー名	設備名	年産能力	稼動/閉鎖月日
Mittal Steel Kryviy Rih	コークス炉など		06年稼動予定
	ビレット連鑄・熱延ミルなど		08・09年稼動予定
Ilyich	No.2高炉改修	+10万t	05年稼動済
	スラブ連鑄	100万t	06~07年稼動予定
Azovstal	No.2高炉再稼動	110万t	06年7月再稼動済
	スラブ連鑄	250万t	06~07年稼動予定
Zaporizhstal	転炉へスラブ工場	200万t	08年稼動予定
	酸洗設備	140万t	08年稼動予定
Dniprovsky (Dzerzhinsky)	No.10高炉(1,500m³)再稼動	110万t	05年稼動済
Makeevka	No.1高炉再稼動		06年稼動予定
	条鋼圧延ミル	70万t	07年稼動予定
Alchevsk	スラブ連鑄	250万t	05年8月稼動済
	No.1高炉(3,000m³)再稼動		06年再稼動予定
	300t転炉2基		06年末/07年末稼動
Yenakievo	No.5高炉(1,583m³)置換え	110万t	06年冬稼動予定

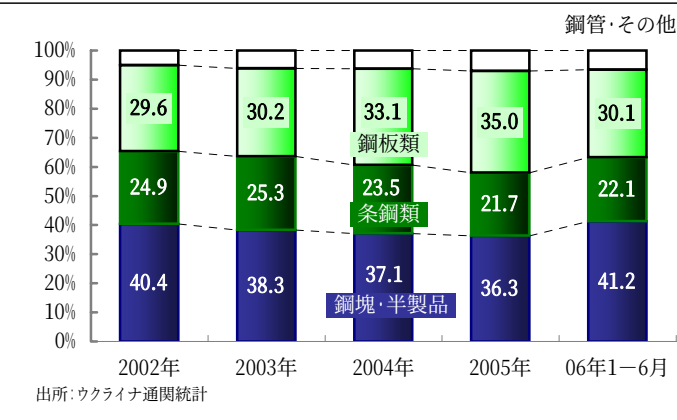
- 高炉の改修や平炉から転炉への転換などの上工程の合理化や省エネ分野に重点。設備改修による漸進的な能力増が中心。

3 鉄鋼生産、輸出入

(図表6) 鋼材生産、輸出入の推移



(図表8) ウクライナの品種別輸出構成比



- 品種別輸出構成比では鋼塊・半製品が最大のシェアを占める。2005年までは継続的にウェイトが減少するも2006年上期にはウェイトが上昇。

◆ 鋼材輸出の見通し

輸出余力は十分あり、今後も輸出に注力か

- 国内需要は増加基調にあるも規模は極わずか
- 大手ミルの設備投資・合理化計画の進展
- アジア向けは減少し(中国の存在)、一方で欧州や中東などの比率が高まる。

4 鋼材需要産業動向

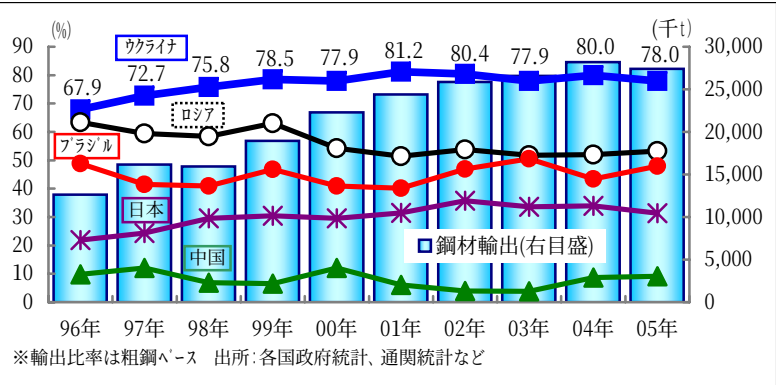
◆ 建築業

住宅建設は、04年は前年比2.7%増。小型アパートが主で、質の高い住宅に対する潜在的な需要は高いが、家計収入の増加と個人信用市場の成熟が必要。
非住宅建設は、04年は同6.2%増。パイプライン等エネルギー輸送やインフラが好調で04年は9.6%と急伸。

◆ 自動車市場

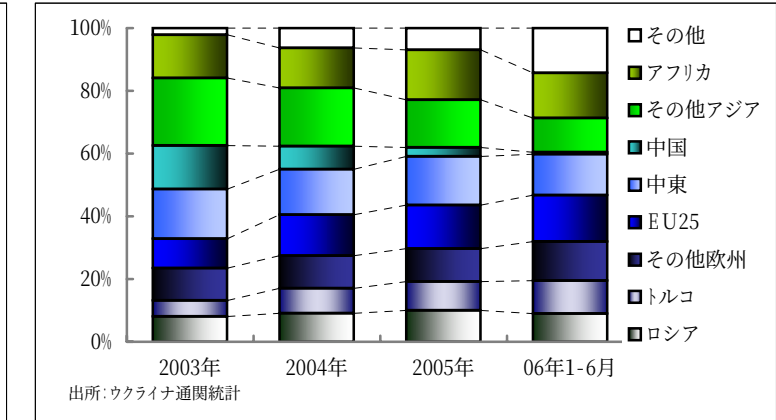
乗用車の2005年生産台数は21.6万台と2000年の3.1万台から急伸。市場の拡大の背景には、ロシアと同様、経済の好調による富裕層の増加が指摘され、最近では、急拡大が予想されるウクライナ市場での販売拠点の確保に向けて日本の自動車各社の現地での販売会社の設置の動きが相次いでいる。

(図表7) 鋼材輸出および主要輸出国の輸出比率



- 鋼材輸出量はこの10年間で倍増し、2005年は日本、ロシアに次ぐ世界第三位の鋼材輸出国。

(図表9) ウクライナの主要向先別輸出構成比



- 中国を含むアジア向けのシェアの低下が顕著。特に中国向けは03年から05年にかけて実に300万トン弱の減少。中国が鋼材純輸出国となったことが背景。

輸出に影響を与えると思われる要因

- ◆ プラス面
 - 世界的に増加する鋼材需要
 - 大手ミルの設備投資に伴う品質やプロダクツミックス改善
- ◆ マイナス面
 - 中国の純輸出国への転換(中国向け鋼材輸出の減少・中国との各輸出市場での競争激化)

5 原料自給率

(図表10) ウクライナ鉄鋼メーカーの原料自給率

企業名	05年粗鋼生産量	その他関連企業	原料調達動向
Mittal Steel Kryviy Rih	700万t	Novokrivorovsky (鉄鉱石)	鉄鉱石はほぼ自給、原料炭については国内、カザフスタン、ロシアから外部調達。今後投資により原料炭の自給を達成を目指す。
Ilyich	700万t	Komsomolsky (石灰)	鉄鉱石は現在外部調達に依存、現在鉱山開発投資推進中。コークスは自給率30%。
Azovstal	590万t	Krasnodonugol (石炭) Avdeevskiy (コークス)	鉄鉱石、原料炭、コークスは100%自給。
Yenakievo	230万t	Northern Mining (鉄鉱石)	
Alchevsk	370万t	Alchevsky (石炭、コークス)	原料炭、コークスは100%自給。
Dniprovsky	320万t		鉄鉱石は外部調達。
Zaporizhstal	440万t	27% in Zaporizky (鉄鉱石)	原料の大多数は外部調達。